

アナログアキュライザーの活用(15)

－ハイレゾ音源(1)－

1. 始めに

これまで各種のハイレゾ音源を試聴してきましたが、アナログアキュライザー導入後、どのようになったかを集中的に試聴していません。今回、各種のハイレゾ音源を、順次、アナログアキュライザーを導入したシステムで試聴していきます。

2. アナログアキュライザーの試聴方法

ハイレゾ音源は、fidata HFAS1-S10 から送り出しのハイレゾ音源再生とし、次のルートでの再生を行います。

fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→AACU-1000→P&G フェーダー→
300B シングルアンプ

ハイレゾ音源は、ディスコグラフィーで紹介してきたもので、ディスコグラフィーIndexから抽出してみます。

今回の音源は、オーディオ資料室収載の[ハイレゾ音源 1](#) に示されたもののうち、ステレオサウンド社から BD-ROM で提供された 11.2MHz DSD 音源を fidata に収納したものです。

3. アナログアキュライザーの試聴結果

ハイレゾ音源 1 にはステレオサウンド社から BD-ROM で提供された 11.2MHzDSD 音源は 6 音源があります。

それらを順次聴いていきましたが、アナログアキュライザーが加わったことにより以前の印象から随分と違ってきています。以前の印象は、ハイレゾ音源 1 に示されたディスコグラフィーのレポートを参照願います。

シュタルケルのバッハの無伴奏チェロ組曲は、硬質感が後退し、ふくよかで豊かな響きが増しています。

その他は、すべてオーケストラ曲ですが、以前の印象でも広がりや奥行き感がありましたが、個々の音像が明瞭になっただけ、さらに 3 次元的な音場感が向上しています。また、個々の音像が明瞭になっただけ、演奏の場の見通しがよくなり、オーケストラ全体の迫力がでています。

4. まとめ

ステレオサウンド社から BD-ROM で提供された 11.2MHzDSD 音源において、フォ

ーマツトの優位性が確認できました。

以上